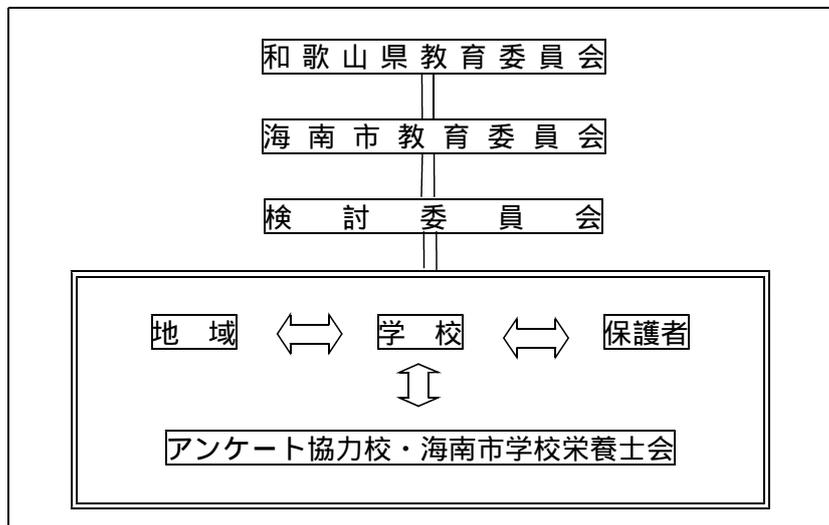


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	和歌山県
推進地域名	海南市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

**テーマ1** 食について自ら考え・判断し・実践できる子どもを育てる。その目標に向け、食に関する指導の工夫改善を行っていく。

### アンケート調査の実施

- ・児童に「食生活アンケート」を行い、実態を把握し、そこから見えてきた課題（食事マナー等）に向けての指導を行った。
- ・家庭で食事中によく注意される事は何ですか？の質問に対して、おはしの持ち方や姿勢の悪さと答えた児童が多かった。また、学級担任からも、食事マナーの指導が難しいという声が多かった。そこで、「おはしの使い方」、「食事の時の姿勢」などをイラストで示した指導用マナーシートを作成し、給食時間の指導に活かした。



### 食に関する指導全体計画の見直し

- ・食に関する指導全体計画を基に、発達段階に応じた指導を継続的に実践した。
- ・効果的な指導について工夫改善を行った。  
教科等における食に関する指導（実践事例）

### 主な指導内容

学 年	教 科 等	題 材 名
1 学年	学級活動 生活科 学級活動	きゅうしょくすきなこげんきなこ ピーナッツのひみつ もっときゅうしょくをすきになろう
2 学年	学級活動	すききらいなく食べよう
3 学年	国語科 総合的な学習 学級活動	大豆のへんしん とうふを作ろう 食べ物のはたらき
4 学年	学級活動	食生活を考えよう
5 学年	学級活動 家庭科	おやつを考えよう ご飯とみそ汁を作ろう
6 学年	家庭科 体育科（保健領域） 家庭科	朝食にあうおかずを考えよう 生活のしかたと病気の予防 楽しい会食
特別支援	学級活動	やさいのなまえ なあに
特別支援	学級活動	じゃがいももちを作ろう



### 幼稚園における食育の充実

- ・ 幼稚園において食に関する指導を実施
  - \* 「すききらいをなくそう」の学習では、紙芝居を使って楽しく指導ができた。
  - \* 「やさいのなまえなあに？」の学習では、五感を使って実際の野菜を体感した。
- ・ わくわく給食の実施
  - \* 幼稚園児と1年生が、給食を共にし交流した。



### 研究授業、研究協議の実施

- ・ 食に関する研究授業・研究協議を行うことにより、食に関する指導方法の改善を図った。
- ・ 海南市内全小学校参加の給食主任会において、学校における食に関する指導についての実践報告や資料提供を行い成果を他校に普及した。

テーマ2 学校・家庭・地域との連携による食に関する指導の充実を図る。

**アンケートの実施**

- ・保護者に「食生活アンケート」を行い実態把握し、そこから見えてきた課題を解決するための啓発活動を地区懇談会やたよりを通して行った。

**給食試食会の開催**

- ・1年生保護者給食試食会及び給食参観を実施し、学校給食への理解と関心を高めた。
- ・担当地区の校長・保護者代表・養護教諭・教育委員会・栄養教諭・学校栄養職員・調理員代表が組織となっている給食連絡調整会においても給食試食会及び給食参観を実施し、共通理解を図った。



**食育講演会の開催**

- ・食育講演会を実施し、幼稚園、小学校の保護者や地域に呼びかけることで、食の重要性を理解してもらい、地域ぐるみでの食育推進に努めた。
- \* 11月22日(火)「食生活と器」をテーマに食育講演会を実施した。

**伝統料理を地域の方々と共に作る体験の実施**

- ・学校・家庭・地域の三者が協力して梅干し作りや味噌作り、もちつき等を行い食体験をする。
- ゲストティーチャーによる食に関する指導(実践事例)

主な指導内容

学年	教科等	題材名
1学年	生活科	野菜となかよし
2学年	学級活動	トマトゼリーを作ろう
3学年	総合的な学習	みそ作りを教えてもらおう
4学年	学級活動	こんにゃくを作ろう
5学年	社会科 総合的な学習	漁師さんの仕事を知ろう 自分だけのふりかけを作ろう
6学年	総合的な学習 総合的な学習	梅干しを作ろう シェフに料理を教えてもらおう
全学年	サタデー行事	そうめん流し もちつき





#### 食育リーフレットの作成

- ・栄養教諭を中心に、市内の学校栄養職員の連携協力により、食育リーフレット「しっかり食べよう 朝ごはん」を作成し、市内の全小学生に配布した。家庭での朝食献立を考える際に役立ててもらえた。

#### 食文化の学習

- ・地域のお年寄りを招き、昔の食生活の話や遊びを覚えてもらった後に、給食を食べながら「お箸の持ち方」を教わった。

### テーマ3 学校給食における地場産物の活用を進めていく。

#### 地場産物を使用したメニューの開発や献立の工夫

- ・月1回「和歌山県産、海南市産」の食材（野菜）を使用した日を設定し、積極的に地場産物の活用を図った。
- ・和歌山県の特産物である梅干しを漬けた後に出来た「梅酢」を使用し、「梅酢揚げ」を学校給食のメニューに取り入れる等献立の工夫を行った。

#### 伝統料理を活用したメニューの開発

- ・伝統料理について地域のお年寄りと話し合う中で、新メニューとして給食献立に導入した。

#### 地場産物・伝統料理の再発見

- ・地場産物や伝統料理を使用した学校給食を「生きた教材」として効果的に活用しながら、それらの良さについても指導した。

#### 海草地方学校給食研究会調理講習会の開催

- ・指導講師より地場産物や郷土食を使用したメニューの開発や献立の工夫について指導助言や講演会を実施した。

### テーマ1～3に共通する具体的計画

アンケート結果から、朝食の摂取率は約9割あるものの内容は乏しく、朝食内容の充実が、課題と考え、主食だけの朝食から副菜を増やす朝食作りに重点をおいて家庭等に啓発を行ってきた。その方法として、給食だよりに「簡単にできる朝食作り」の掲載や、食育リーフレット「しっかり食べよう 朝ごはん」を作成し、家庭に配布し活用した。また、これらの調査で得られた情報は、地区懇談会で

公表し、それをもとに家庭での「食」に関する情報交換や悩みについて意見を出し合ったり、学校や家庭で子どもにどのように指導していけばよいかなどを話し合い、連携を深めた。さらに、地区懇談会で出された意見を学校便りに載せ、「食」への関心を高めた。

地域のお年寄りに昔の食生活について話を聞いたりし、命をいただくことについて子ども達一人ひとりに考えさせた。また、郷土の料理についても考えさせる取組を行った。

## 数字で変化のあった事項について

<資料1> 食の摂取率の変化

平成21年度6月	毎日食べない	7名
平成22年度6月	毎日食べない	4名
平成23年度6月	毎日食べない	3名

・朝食の摂取率の変化について、上記の資料により年々減少してきている。アンケート、食育懇談会、家庭との連携といった取組の一つの成果と考える。今後、家庭、地域との連携を深め、朝食欠食率をゼロにしていきたい。また、朝食内容について課題があり、充実した内容の朝食が取れるよう、学級懇談会等を通じ朝食の大切さを啓発し、家庭と連携しながら食育を進めていく。

<資料2> 夕飯を誰と食べるか

平成22年度	1人	14.8%
平成23年度	1人	2.4%

・食事を家族で食べコミュニケーションの向上を図った。孤食を予防し、健全な食生活の実現に向けて、学級懇談会等での機会を捉え食育の大切さを訴えた。

<資料3> 地場産物活用の変化

平成21年5月	3品
平成22年5月	7品
平成23年5月	8品

・月1回の和歌山県産のみの野菜を使用する献立の実施により納入業者も「できるだけ地元の物を」と配慮してくれるようになってきた。今後もより一層地場産物を活用していきたい。

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### ・アンケート実施

保護者対象食生活アンケート結果を地区懇談会で話し合いをもったので、子どもや家族の食生活を振り返るとともに保護者間の横の繋がりにもなった。また、食をテーマに保護者、地域との繋がりも深くなり、食への関心も高くなった。

### ・伝統料理等を地域の方々と共に作る体験の実施

地域の方々にゲストティーチャーとして来ていただくことで、たくさんの初めての体験ができ、地域の食材や特産物などに目が向けられるようになってきた。サタデー行事で餅つきを保護者・地域の方々と連携しながら行った。子ども達に伝統行事の一つを楽しく体験させることができた。

### ・体験活動

子ども達は、調査をして新しいことを「知る」、野菜を「育てる」、育てた野菜を工夫して「味わう」などの体験活動を通して、意欲的に取り組むことができた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

### ・朝食内容の充実

朝食の必要性については、指導しているため、朝食摂取率は向上している。しかし、朝食内容の充実を図るために「簡単にできる朝食作り」を調理実習等で指導していく必要がある。また、家庭への啓発も必要である。

### ・食に関する指導の徹底

幼稚園・小学校の連携を密にして発達段階に応じた系統的な指導の充実を図る必要がある。

### ・地場産物の活用・伝統料理の伝承

地場産物の活用率がより上昇できるように、JA等の業者に地場産物を納入してもらえるように協力依頼を行っていく必要がある。

子どもたちの嗜好的に苦手な伝統料理の良さについて、子どもたちに指導の必要がある。

### ・食育の必要性

食育は生きていく上での基本であり、その充実に向け、計画的、継続的に取り組む必要がある。